

## 会長の記事が掲載されました



かずえすと表紙の題字を作  
成し、後援会会員でもある渋  
川市の版画家、高橋房雄さん  
が今年4月「岡鹿之助賞」を

### 高橋房雄さん 岡鹿之助賞受賞

森永一衣後援会の会報に、弊社会長の記事が掲載されました。  
森永一衣さんは、群馬県渋川市出身のソプラノ歌手です。  
84年に「魔笛」でオペラデビューし、その後さまざまなオペ  
ラ公演にソリストとして出演しています。また、N響や群響と  
の共演など日本でもイタリア各地でも活動を展開しています。  
また、森永一衣後援会は発足22年を迎えています。

会場。  
今年4月、私は、六本木国  
立新美術館で開かれた第91回



「アコーステ  
イック」という  
言葉をこの夏、  
森永一衣さんか  
らうかがった。  
場所は渋川市美  
術館、私の個展

### 「アコースティック」 高橋 房雄さん



高橋房雄さんの  
個展会場にて

### 受賞作「春の 鎮魂歌」

受賞されました。岡鹿之助賞  
とは、西洋絵画の点描画法を  
用い、静けさに満ちた幻想的  
な風景画（主に雪景色）を  
数多く残した岡鹿之助さん  
（1898—1978）を称  
えたもので、今回は版画部門  
で高橋さんが受賞しました。  
受賞作は「春の鎮魂歌」。六  
本木国立新美術館で開かれた  
第91回春陽展に出品し、同賞  
を受賞しました。

あの時、「アコースティ  
ック」という突然のお言葉にギ  
ターを連想し、どうしてギタ  
ーの話……と一瞬戸惑ってし  
まった。しかし、すぐに常に  
磨きぬいている自分の声に対  
するこだわりの深さ、芸術に  
対する愛の深さ、見事な芸術  
家魂に脱帽してしまった。  
森永さんには、まだまだ頑  
張っていただきたいと願って  
いる。

春陽展で岡鹿之助賞をいただ  
いた。春陽会は梅原龍三郎や  
岸田劉生、萬鉄五郎、中川一  
政などの錚々たるメンバーが  
始めた伝統のある会で、絵画  
部門と版画部門がある。  
私が「自分の個展では、額  
縁のガラスは全部外して観て  
いただくことにしている。た  
いしたことではないかもしれ  
ないが、直接版画の摺り具合  
や紙の肌合いを見ていただく  
こと。これにこだわりがある」  
とお話したら、森永さんが「あ  
あ、それなら私はアコーステ  
イックですよ。歌の時はマイ  
クを使いません。私の声を直  
接聞いていただくことにこだわ  
っています」と話されたの  
だ。

2014年11月6日発行

### 1 森永一衣後援会報